令和８年度第２回福井支部評議会　議事概要報告

開 催 日 時	令和８年 10 月 28 日（水）10：00～11：50
開 催 場 所	全国健康保険協会福井支部会議室（福井県繊協ビル９階）
出席評議員	木村評議員、クロダ評議員、西川評議員、野﨑評議員、平工評議員、松本評議員（五十音順）
議　　題	

（１） 令和９年度平均保険料率について
（２） 中期戦略プランについて
（３） 支部戦略プラン（支部健康づくり戦略）と令和９年度事業案について

議 事 概 要 （主な意見等）	

（１）令和９年度平均保険料率について

事務局より資料に沿って説明

【学識経験者】

収支見込みの試算は賃金と医療費が毎年同じように増加していくという仮定で作成されているのか。また、試算ではここ数年は単年度収支黒字だが、その後赤字が続き 2040 年近くになると準備金が枯渇してしまうように見える。今の状況だと、賃金上昇率よりも医療費の伸びの方が大きいため、将来的に準備金が減る方向に向かっていくということか。

【事務局】

機械的に過去の実績をベースに一定の率を設定し試算しており、賃金上昇率等の違いにより前後はするが、すべてのパターンで単年度収支は赤字に転落、準備金残高は右肩下がりに減少していく試算となっている。

【被保険者代表】

インセンティブ制度の指標にあるような健診や健康づくりなどの取組を一生懸命取り組めば、将来的な医療費は抑えられ、一生懸命努力した支部はインセンティブ制度の恩恵も受けられる。短期的な保険料率を上げる下げるという議論よりも、将来にわたり健康保険制度が維持できるよう、10%を超えない範囲で維持しつつ、努力した支部が保険料率引き下げのインセンティブをさらに受けられるよう制度の見直しや制度の周知を行っていただきたい。

【事務局】

インセンティブ制度は現在見直しを予定しており、決まり次第しっかりと広報を行い、加入者・加入事業所に対し周知していく。いただいた意見を参考に健康づくり事業に注力していきたい。

【事業主代表】

事業主の立場としては保険料率は低いに越したことはないが、賃上げ等経営努力をして貢献していきたい。

【学識経験者】
単年度収支の黒字が続いており、準備金も積みあがっているが、2030 年以降には単年度収支が赤字になるような試算を見ると、平均保険料率は 9.9%維持で良いと考える。また、保険料率引き上げ・下げのメルクマールについては決めておいた方が良いが、それを状況に応じて見直すことも必要である。

【学識経験者】
保険料率引き上げ・下げのメルクマールは全国共通の基準として検討しているということでよいか。

【事務局】
本部の運営委員会で示されたもので、今回各支部の評議会でも提示し意見を伺っている。

【学識経験者】
10%維持というスタンスで来ていたが、今年度は引き下げとなった。現在は単年度黒字基調で財政基盤も安定しているが、今後何があるかわからない社会情勢の中、赤字の健康保険組合の解散等の外的要因も想定されるため、継続的な引き下げは困難であると考える。予期できない社会情勢等にも柔軟に対応できるように検討すべきである。

【事業主代表】
保険料率が 8%台であった時期は単年度収支マイナスが続き、その後保険料率を引き上げることによって準備金を確保できるようになった経緯があるため、10%を超えない範囲で現状維持とすることは妥当と考える。しかし、加入者が健康であれば医療費はかからず保険料を使わないということになるので、健康づくりの取り組みを一層強化していっていただきたい。

【学識経験者】
いただいた意見をまとめると、平均保険料率については現状維持が妥当ということ、保険料率の引き上げ・下げについては予期できない社会情勢等にも柔軟に対応できるように検討すべきということ、将来的な医療費の削減、保険料率の引き下げにつながるよう、より一層健康づくり事業に注力していただきたいということになるかと思うので、福井支部評議会の意見として本部の運営委員会にあげていただきたい。

（2）中期戦略プランについて
（3）支部戦略プラン（支部健康づくり戦略）と令和 9 年度事業案について
事務局より資料に沿って説明

【学識経験者】
けんぽアプリはどの程度浸透、機能しているのか。

【事務局】
けんぽアプリは加入者個人へのアプローチツールであり、現在はまだ初期段階（バージョン 0）であり、各種給付金の電子申請機能がメインとなっている。今後バージョンアップによりコンテンツを充実させていく予定であり、そうなればユーザーは増えていくと考える。また、大規模事業所には経営層にアプローチをかけ、数の多い小規模事業所の加入者に向けてはアプリを通じた健康づくりのアプローチができればと考えている。

【学識経験者】
嶺南地域では以前、検診車の派遣等で少しずつ成果が出ていたと思うが、現在の状況はどうか。

【事務局】
嶺南地域の健診機関の数は変わっていないが、市立敦賀病院の健診センターの拡充によるキャパシティの増加、JA 福井県厚生連の検診車健診の実施体制強化により少しずつではあるが受診率は上がってきている。

【事業主代表】
嶺南地域の受診率が低い一方、奥越地域は受診率が高いが、どのような要因があるのか。

【事務局】
奥越地域については、勝山総合病院が検診車でも実施していることに加え、奥越在住で福井市内へ通勤している方も多く、受診機会が多いことが高い受診率につながっている。一方、嶺南地域は嶺北への移動が少なく、地域の健診機関自体も少ないため、受診機会やアクセスの利便性の差が受診率の低さの大きな要因となっている。

【被保険者代表】
小規模事業所の受診率が低い原因は、業務が多忙で手が回らないためか、それとも他の要因があるのか。

【事務局】
被保険者 1～5 名の事業所について分析したところ、未受診者の半数が事業主もしくは事業主と同じ姓の方であることが分かった。事業主は福利厚生として会社で健診を受けるという意識が薄いことや、協会けんぽの補助を利用せず独自で人間ドック等を受診していることが窺える。そのため、年末に事業主とその家族に向けた受診勧奨の実施を予定している。

【被保険者代表】
自社の健康づくりの課題として、健診を「受けただけ」で終わってしまうことや、産業医から再受診を促しても、多忙を理由に受診しなかったり、個人のプライバシーの問題だと言われたりすることがあり、難しさを感じている。他社の好事例を知れたり、進み具合に応じた伴走型のフォローアップをしていただけると助かる。

【事務局】
過去の分析を踏まえ、今年度から健診機関を巻き込んだ 0 次勧奨を進めている。具体的には、生活習慣病予防健診の結果を事業所あてに送付する際に、医療機関への受診を促すチラシを同封していただいている。また、事業主から一言メッセージを書いていただく欄も設けている。

【被保険者代表】
学童期の子どもを対象とした健康教育事業も大変良い取り組みである。親も会社の研修やセミナーで学び、子どもも学校で学び、それを家庭で一緒に話し合えるきっかけになればと思う。

【事務局】
柔軟に物事を吸収でき、家族と話す機会も多い年頃ということで小学 3 年生をターゲットとして実施していく予定である。また教材の中に健康目標を書き込むページを設けており、家庭に持ち帰って家族へ波及させる仕組みを考えている。

【学識経験者】
学童期の健康教育事業について、坂井市で実施するとのことだが、教育委員会と相談しながら進めているのか。

【事務局】
これまで手探りで複数の市町で出前授業を実施してきた中で、坂井市の健康増進課から教育委員会へ繋いでいただき、校長会で説明して全小学校へ周知するというスキームが確立できたところである。来年度はこの坂井市でのモデル事業を着実に実施し、他の市町へも広げていきたいと考えている。

【事業主代表】
保護者も一緒に話を聞いて気づきを得られるような場面ができるとさらに良いのではないか。

【事務局】
小学校の保健の先生が企画する健康イベント等に参加できれば、保護者も巻き込んだアプローチも可能かと考えており、今後はそうした機会も模索していきたい。

【事業主代表】
中期戦略プランの中で情報通信の高度化やサイバー攻撃への対応が挙げられているが、個人情報等のセキュリティは万全か。

【事務局】
万全を期している。先般の PHP に関しても本部が統制し調査・対策済みである。

【学識経験者】
健康保険委員セミナーについて小規模事業所の健康保険委員の出席はどの程度なのか。

【事務局】
概ね 20%程度にとどまっており、一定規模以上の事業所の参加が中心となっている。小規模事業所へも案内を行っているが、人が少なく参加が難しいケースが多いため、アーカイブ配信により視聴できるようにしている。

【学識経験者】
特定保健指導の外部委託による実施率が低いという課題について、今後どのように伸ばしていこうと考えているか教えていただきたい。

【事務局】
今年度から開始した人間ドック健診において特定保健指導を必須としたことで、現在実績が伸びてきている。一方、健診機関側の人手不足やノウハウ不足といった課題もあるため、支部の保健師が直接アドバイスを行うなどの支援を行っている。

以上

特記事項

・新聞社 1 社が傍聴
・次回評議会は令和 9 年 1 月を予定